

長岡重松囃子

瑞穂町無形民俗文化財

所在地：瑞穂町長岡



長岡地区に囃子が伝わったのは昭和23年頃で、終戦で若者達の心がすさみがちな時、神社総代、町内会、地域の有志の方々が発起人となり、氏子の方々の協力を得て囃子の道具一式を購入しました。当時、地元の小沼伝吉氏が熱心に青年団の若者達を集め、石畑囃子連から師匠を招き、重松囃子を習得しました。以降、盛大にお

祭りが行われるようになりました。しかし、社会情勢の変革から青年団も解散したため、囃子も中断してしまいました。昭和46年(1971)9月、沢田順太郎氏(初代会長)が発起人となり、長岡に住んでいた石畑・殿ヶ谷生まれの方や若い方、元青年団の方などに呼びかけました。囃子は石畑囃子連から指導を受け、中断前の囃子が復活し、昭和48年(1973)9月に長岡囃子連が再興されました。その後、愛宕神社例大祭や町イベント、他地域のお祭りへの協力などで囃子を披露しています。

伝承している曲目は、「本囃子」「人波(にんば)」「仕丁目(七鳥面)」「ねんねこ」「昇殿」などです。